

X 進行管理(点検評価) シート

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(1)確かな学力の育成			担当課	担当課評価
細 施策	①学力向上対策の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上検討委員会において、本市の児童生徒の学力の現状と課題を把握しながら新学習指導要領への対応を図ります。 ・児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上への具体的な取組を指導し、学力向上を推進していきます。 				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者、保護者・地域の代表、教育関係者で組織された学力向上検討委員会を3回開催しました。 ・過去3年間の取組について検証し、成果と課題を明確にするとともに、家庭学習の習慣化及び生活習慣の確立に向けた方策を検討しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	授業以外で1時間以上勉強する児童の割合(小学校5年生)(%)	43	37	40	
	授業以外で1時間以上勉強する生徒の割合(中学校2年生)(%)	49	51	53	
評価の理由	<p>学力向上アクションプランの周知や活用状況、教員や保護者の家庭学習に関する意識調査の結果を踏まえた方策をまとめ、ホームページで学校や家庭に発信したことにより、意識改革が図られ、概ね順調に進ちよくしています。</p>				
改善の方策等	<p>学校と家庭の連携強化を進めるため、昨年度のアンケート調査結果と先進校の取組を参考に啓発資料を作成し、児童生徒の学びの基盤となる「家庭学習の習慣化」を推進していきます。</p>				

施策の柱	(1)確かな学力の育成			担当課	担当課評価
細 施策	②市独自の少人数学級編制の推進			学校管理課	B
施策の内容	<p>国の35人学級編制の動向を踏まえ、個に応じた教育やよりきめ細かな授業等を目指し、市独自の少人数学級編制の推進を図ります。</p>				
平成24年度実績	<p>中学校1学年で1学級あたり概ね35人を超え、かつ県の少人数学級編制に該当しない中学校7校に、各1人の「少人数学級のための臨時講師(国語1人、社会1人、数学1人、理科2人、美術1人、音楽1人)」を配置しました。これにより、該当学年では1学級増え、1学級あたりの生徒数を少なくすることができました。</p>				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	臨時講師配置状況(人)	6	9	7	
	対象校に配置した率(%)	100	90	70	
評価の理由	<p>学習指導や生徒指導等で、個に応じたきめ細かな指導ができたこと等、概ね順調に進ちよくしています。しかし、心の教育・学力の向上・いじめの未然防止、少人数学級編制等、各学校の課題に応じた配置等に問題があり、検討の必要があります。</p>				
改善の方策等	<p>学校における課題に応じて教員を配置し、生徒指導體制の充実や学力向上に向け、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進していきます。</p>				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(1) 確かな学力の育成			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学力向上対策の推進	教育指導課	B	B	B
	②市独自の少人数学級編制の推進	学校管理課	B		
学識経験者等 意見	<p>・埼玉県教育委員会との関係もあると思うが、学ぶ意欲の情意的側面の学力評価について意図的・計画的に今後も実施してもらいたい。</p> <p>・学力の向上やいじめの防止など色々な学校の課題があるが、学校課題に応じて教員の配置に努めていることは大いに評価できる。</p>				B

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施策	①学力（読む・書く・計算）向上の推進			教育指導課	B
施策の内容	学習指導要領に基づき、読む・書く・計算の観点を中心に、子どもたちの学力の土台づくりを進め、小・中学校の連携を踏まえ家庭の協力を得た学力向上の推進を図ります。				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上研修会を実施し、結果分析の仕方や研究資料の活用方法等について研修を進め、基礎的・基本的な学力内容を定着させました。 ・検証結果の分析プログラムを全小・中学校に配布し、各学校が自校の分析結果をもとに対応策を検討できるようにしました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	小学校「読む・書く」、「計算」達成率90%以上の項目(各学年2項目×6学年)	10項目／12項目	11項目／12項目	12項目／12項目	
	中学校「読む・書く」、「計算」達成率90%以上の項目(各学年2項目×3学年)	3項目／6項目	4項目／6項目	4項目／6項目	
評価の理由	各学校の学力向上策の中に「教育に関する3つの達成目標」を位置付けることで、多くの項目で「読む・書く」、「計算」の達成率が90%を上回るなど、概ね順調に進ちよしています。				
改善の方策等	「読む・書く」、「計算」等の基礎的・基本的な学習内容を活用する場を意図的・計画的にもたせて、学習内容の定着を図るなど指導法の工夫改善を図ります。				

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施策	②規律ある態度の育成			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校における基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせます。 ・学校が家庭や地域と連携を密にし、思いやりや感謝の心、公共心、善悪を判断する力など、豊かな心を育みます。 				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校においては校種間の連携を通して、学習の仕方や生活のきまり等について9年間を見通した生活習慣、学習習慣の定着に向けた取組を進めています。 ・「朝のあいさつ運動」についても多くの学校で定着が図られ、自校でのほりを作る等の積極的な取組を進めています。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	小学校・規律ある態度達成率80%以上の項目(各学年12項目×6学年)	58項目／72項目	65項目／72項目	69項目／72項目	
	中学校・規律ある態度達成率80%以上の項目(各学年12項目×3学年)	33項目／36項目	32項目／36項目	33項目／36項目	
評価の理由	児童生徒質問紙調査の結果、達成率が80%以上の項目数が増加しており、概ね順調に進ちよしています。				
改善の方策等	規律ある授業が学力の向上に関連があることを踏まえ、学校指導訪問等の機会を通して、各校の実態に即した取組を支援してまいります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③体力向上の推進			教育指導課	B
施策の内容	豊かな人間性や生きる力の重要な要素である基礎的な体力を向上させるために、家庭や地域との連携を図りながら、児童生徒の発達段階に応じた効果的な体力向上の取組を充実します。				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度川越市児童生徒体力向上推進委員会で、体力向上全体研修会や授業研究会を実施し、冊子「じゃんぷ」「川越市小・中学校新体力テスト一覧」を発行しました。 市内各学校の体力向上への取組をまとめ冊子として配布することで、市全体の体力向上に結びつくようにしました。 運動の特性に触れる体育・保健体育の授業の推進にあわせ、小学校の体力向上に関する取組(朝マラソンや休み時間を使った運動)や中学校の部活動が充実するように取り組みました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	前年度より結果のよい種目(小学校)	上体起こし・シャトルラン(男子)	上体起こし(男子)	反復横とび(男子) シャトルラン、50m走(女子)	
	前年度より結果のよい種目(中学校)	ボール投げ(男女) 50m走(男女)	50m走(男女) ボール投げ(男子)	上体起こし(男女)、長座体前屈(男女)、反復横とび(男女)	
評価の理由	運動する楽しさを重視した授業や朝マラソン等体力向上に係る取組が各学校の工夫のもとに展開されており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	体育や保健体育の授業における運動量を確保し、朝会や休み時間を活用した業前・業間運動や体づくり運動を実施することで、家庭や地域で日頃からスポーツに親しむ習慣づくりなどに取り組みます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学力(読む・書く・計算)向上の推進	教育指導課	B	B	
	②規律ある態度の育成	教育指導課	B		
③体力向上の推進	教育指導課	B			
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> 最近の子どもたちは、考えて読んだり、考えて書いたりという考える力が伸びていないと感じるため、考える力をつける教育を行ってほしい。 体を動かすことに喜びを感じる工夫を考えてほしい。 				B

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施策	①小学校・中学校連携の推進			学校管理課	A
施策の内容	<p>・市内全小中学校を、8ブロックに分け、それぞれのブロックごとに小中学校間の連携を一層進めてまいります。</p> <p>・校長のリーダーシップのもと、教育委員会からも指導主事を配置するなどサポートをしながら、課題を明確にして各学校で行ってきた連携の取組の見直しや改善を図り、学校教育の一層の充実・活性化を図ります。</p>				
平成24年度実績	<p>各ブロックの研究委嘱校を中心に、教員間では小中合同授業研究会や研究協議を行い、系統的な学習指導についての協議を実施しました。児童生徒間では、中学校への1日体験入学や部活動による交流等が行われました。更に保護者・地域間では、地域の行事に児童生徒が参加することにより、地域に根ざした学校づくりを進めることができました。</p>				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	中学1年生不登校者数(人)	35	45	27	
	中学1年生全体に占める不登校者数の割合(%)	1.00	1.34	0.95	
評価の理由	<p>各校から提出された実践報告書によると、成果の感じられた取組として、「教員に関わる連携」では合同研修会・連絡会が96%、授業公開・研究協議が95%、「児童生徒に関わる連携」では、ガイダンス・母校訪問等が89%と高い割合となっており、順調に進ちよくしています。</p>				
改善の方策等	<p>ブロック数やブロックを構成する学校の組み合わせを見直すことで、校種間連携を行う時間と場の工夫と体制づくりを進めます。</p>				

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施策	②中学校・市立川越高等学校連携の推進			学校管理課	B
施策の内容	<p>・中学校と市立高等学校が一層連携し、双方の円滑な交流や相互理解、授業改善や教員の指導力向上に向けた取組を図ります。</p> <p>・「第二次市立川越高等学校将来構想懇話会」の報告結果を基に、中高一貫教育について調査研究を進めます。</p>				
平成24年度実績	<p>市立川越高等学校と近隣3中学校の平成24年度研究委嘱校間では、授業参観や研究協議、高校教員による中学校での出前授業、生徒相互の部活動交流等を実施しました。中学生による高校の体験授業では、学年全体で参加することが試みられ、連携が深められました。</p>				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	教員・保護者間の交流活動件数(件)	14	23	16	
	生徒間の交流件数(件)	3	14	13	
評価の理由	<p>体験授業や部活動の相互交流や合同練習などが一層積極的に取り込まれ、教員の意識も高くなり、概ね順調に進ちよくしております。今後、より多くの市内各中学校との連携に拡大することが課題となっています。</p>				
改善の方策等	<p>系統的な学習指導・生徒指導・進路指導に生かす校種間連携となるよう、さまざまな取組を実施していきます。</p>				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③幼稚園・保育園・小学校連携の推進			教育指導課	A
施策の内容	幼保小連絡懇談会を通して、幼稚園、保育園、小学校のそれぞれの役割の理解を深めるとともに、課題解決に向けた情報を共有するとともによりよい連携のあり方について話し合い、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図ります。				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡懇談会を6会場で実施しました。 ・研究テーマ「幼保小の連携の在り方」から更に視点を「食育」に絞ることで懇談会を活性化し、課題解決に向けた情報を共有しました。 ・各会場での記録を冊子にまとめ、関係者に配布するとともに、公民館等に閲覧用冊子を配布しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	参加園・校数	97	98	102	
	参加人数(人)	224	230	228	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡懇談会への参加が102の園・校に増加しました。 ・懇談会でのテーマを食育に絞ったことで話し合いが活性化し、小1プロブレム等の課題解決に向けた情報を共有するなど、順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	幼保小連絡懇談会の成果を各幼稚園・保育園・小学校の教職員へ周知し、今後も参加園・参加者の拡大を図り、幼保小の円滑な連携を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①小学校・中学校連携の推進	学校管理課	A	A	
	②中学校・市立川越高等学校連携の推進	学校管理課	B		
③幼稚園・保育園・小学校連携の推進	教育指導課	A			
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校連携については中1ギャップの解消に向けた取組として有効だと思うので、今後も更に推進してもらいたい。 ・市立川越高等学校についても特色ある学校づくりをしてもらいたい。 				A

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実				担当課	担当課評価	
細 施 策	①道徳教育の充実				教育指導課	B	
施策の内容	豊かな心を育む道徳教育の一層の充実と道徳的実践力の向上を、学校の教育活動全体で推進します。						
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師研修会を年2回実施しました。 ・学校訪問で公開授業を実施し、授業や分科会の協議を通して指導力の向上を図りました。 						
成果実績	項目名(単位)	H22		H23		H24	
	教育に関する3つの達成目標・規律ある態度「整理整頓・あいさつ・やさしい言葉づかい・集団の場での態度・清掃美化活動」達成率80%以上の項目(各学年5項目)	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
		26/30項目	15/15項目	29/30項目	14/15項目	29/30項目	14/15項目
評価の理由	道徳教育推進教師研修会や学校訪問等を通して、指導力の向上を図ることができ、概ね順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	道徳教育推進教師を中心とした校内組織を整備し、家庭・地域との連携した取組や道徳授業の充実を推進します。						

施策の柱	(4)生徒指導の充実				担当課	担当課評価	
細 施 策	②いじめ・不登校対策の推進				教育指導課	B	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校1年生で急増するいじめ・不登校問題の対応については、小中連携を中心とした校種間連携の中で取組を推進します。 ・いじめ・不登校対策検討委員会を通して、具体的な取組を推進します。 						
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ未然防止対策については、各学校の相談体制、校内いじめ対策委員会、アンケート実施、児童生徒の活動などの進ちよく状況を毎月確認して取り組みました。 ・小中連携を中心とした校種間連携の中で定期的に学校訪問を実施することができました。 ・いじめ・不登校対策検討委員会を組織し、いじめや不登校問題の防止に向けた「教育相談アンケート」や「いじめ対応マニュアル」を作成しました。 						
指標及び説明	【指標】 中学校の不登校出現率			【説明】 市内全中学校の生徒数のうち不登校生徒数の割合			
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	3.33	2.63	2.59	2.17		2.75
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の推進や不登校傾向の見られる児童生徒に対し早期対応に努めることで、不登校の出現率が目標値を下回り、概ね順調に進ちよくしています。 ・いじめ未然防止に向けた取組を明確にすることで、各学校の取組の方向性が定まり、いじめ問題の早期発見・早期対応が図られました。 ・ネットパトロール及びいじめ相談電子窓口を実施しました。 						
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題の早期発見に向け、定期的に児童生徒アンケート及び保護者アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に万全を期してまいります。 ・川越市児童生徒連絡協議会と連携し、各学校の児童生徒が主体となったいじめ撲滅に向けた取組を推進してまいります。 ・校内いじめ対策委員会を更に積極的に実施・活用してまいります。 						

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実					担当課	担当課評価
細 施策	③教育相談の充実					教育センター分室 (リバーラ)	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全中学校に配置している、さわやか相談員の活用を図り、不安や悩みを持つ生徒が相談しやすい教育相談体制を推進します。 ・スクールカウンセラーや教育センター分室(リバーラ)の臨床心理士など、専門的知識を有する人材を活用し、小学校の児童、保護者に対する教育相談体制の充実を図ります。 						
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全中学校に1人ずつ配置したさわやか相談員が、小・中学生、その保護者等延べ9,860人の相談に対応しました。 ・週1回から3週間に1回の割合で配置されているスクールカウンセラーが、生徒やその保護者への面接、教職員への助言など、併せて7,414回の相談を行いました。 						
指標及び説明	【指標】さわやか相談員がかかわりを持ち、解決した割合			【説明】市内全中学校に配置したさわやか相談員が受けた相談件数のうち解決した(相談が終了した)件数の割合			
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	66.8	82.9	84.0	84.2		75.0
評価の理由	さわやか相談員がいじめや不登校、学業や友人問題、家庭環境などの相談に応じ、解決した割合(相談が終了した)が目標値を上回る84.2%となり、順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	今後もさわやか相談員、スクールカウンセラーなどとの連携を深め、不安や悩みをもつ児童生徒やその保護者への教育相談体制の充実を図ります。						

施策の柱	(4)生徒指導の充実					担当課	担当課評価
細 施策	④関係機関との連携事業					教育指導課	A
施策の内容	課題解決のために、教育センター分室(リバーラ)、庁内こども安全課、児童相談所、警察署等の関係機関と連携し、情報交換や対応策を検討します。						
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターといじめ・不登校対策検討委員会を合同で組織し、問題解決のために協力して取り組みました。 ・児童相談所とは児童虐待の問題に対して、こども安全課と情報を共有するなど連携して対応しました。 ・児童生徒の問題行動等に対して、これまで以上に川越警察署生活安全課との連携を深め、学校の支援体制を整備しました。 ・スクールサポーターの配置を要請し、4校に配置されました。 ・学校・地域・警察関係者によるサポートチームが8校で組織されました。 						
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24			
	サポートチームの編成数(校)	3	6	8			
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と川越警察署(生活安全課)の信頼関係を深め、児童生徒の問題等に対し教育委員会が各種調整を図ることで、学校と警察の連携がこれまで以上に円滑に進められ、順調に進ちよくしています。 ・関係機関等と積極的に連携し、迅速な対応が進められました。 						
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関する連携では、指導上配慮を要する児童生徒について事前に情報交換するなど、問題発生時のみの連携にならないようにします。 ・多様な生徒指導の問題への対応について、各学校の取組を集め指導の手立てを広めるなど、迅速に問題解決が図れるようにします。 ・各学校の実情に応じ、今後更に警察との連携を進め、学校と一体となった取組を行ってまいります。 						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	⑤いきいき登校サポートプランの推進			教育センター分室 (リベール)	A
施策の内容	市内小中学校における不登校問題の解消に向けて、大学生による不登校児童生徒支援事業の「いきいき登校サポートプラン」を更に推進し、学校、専門家、地域が連携し、一体となった取組を進めます。				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度は、19人の学生に委嘱し、11人の学生が延べ163回の活動を行いました。 臨床心理士を週1日、年間45日、教育センター分室に配置し、特に配慮を要する難しいケースについてより専門的な対応を実施できました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	活動した学生 実人数(人)	9	13	11	
	活動回数 (回)	110	173	163	
評価の理由	活動した学生の人数が減っているのは、不登校生徒数の減少に伴い学校からの要請が減少したためです。また、大学生による不登校児童生徒支援により、教室への部分復帰を含め、学校復帰が図れた件数の割合が増加し、不登校問題の解消に向けて順調に進ちよしています。				
改善の方策等	関係の大学と連携し、大学生による不登校児童生徒支援を充実させるとともに、サポートプランへの取組をより活性化するために、各学校に活用の仕方について周知を図っていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4) 生徒指導の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①道徳教育の充実	教育指導課	B	A	
	②いじめ・不登校対策の推進	教育指導課	B		
	③教育相談の充実	教育センター分室(リベール)	A		
	④関係機関との連携事業	教育指導課	A		
⑤いきいき登校サポートプランの推進	教育センター分室(リベール)	A			
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策では、①教員の加配、②地域ぐるみの生徒指導が効果があるため、力を入れてもらいたい。 インターネット利用は低年齢化しているため、小学校に対しても家庭教育学級などで啓発を行ってもらいたい。 いきいき登校サポートプランについては、大変素晴らしい取組であるため、今後も積極的に取り組んでもらいたい。 				A

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(5)進路指導・キャリア教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりを大切にされた進路指導・キャリア教育の一層の充実に努めます。 ・中学校では、地域にある事業所や公共施設での体験活動を通して川越市中中学生社会体験事業の充実を図ります。 				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導・キャリア教育研修会を実施し、小学校のキャリア教育の実践発表を行いました。 ・川越市中中学生社会体験を全校で実施し、終了後、今後の生活にどう生かすかについてのアンケート調査を実施し、結果を指導に活用しました。 ・川越市中中学生社会体験実施協議会を開催し、関係団体との連携を図り事業を円滑に運営することができました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	協力事業所数(箇所)	771	828	798	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・全校が計画通りに社会体験事業を実施することができました。 ・事後のアンケート調査によると、「働くことの大切さや意味を考える機会となった」「仕事をするために協力する大切さが理解できた」「社会のきまりを守る大切さを理解できた」「働くことの厳しさ大変さを知ることができた」「人の言うことをしっかり聞くことの大切さを理解することができた」の項目で、98%以上の生徒が肯定的な回答を示すなど、順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	社会体験の事後指導の中で、体験を今後の生活に生かす視点を取り入れるようにしていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(5)進路指導・キャリア教育の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	教育指導課	細施策	施策の柱	
			A	A	
学識経験者等意見	特になし				A

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(6)科学体験活動の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①科学わくわくラーニングプログラム事業の推進			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生を対象に、小学生科学体験事業を実施し、講演会、実験実習、科学施設の見学や体験活動の取組を充実します。 ・理科実験助手派遣事業、小・中・大学連携理科ふれあい事業を充実させ推進します。 				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生科学体験事業として、市内小学校6年生77人を対象に、1日目に講演会、2日目に実験・実習、3日目に日本科学未来館で体験学習を行いました。 ・理科実験助手派遣事業により、小学校においては7校に、中学校は希望校3校に理科実験助手を派遣しました。 ・小・中・大学連携理科ふれあい事業により、小学校11校・中学校3校が事業を実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	理科実験助手派遣事業派遣数(校)	10(小:7 中:3)	9(小:6 中:3)	10(小:7 中:3)	
	小・中・大学連携理科ふれあい事業(校)	10(小:9 中:1)	17(小:13 中:4)	14(小:11 中:3)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・科学体験事業に参加した児童や小・中・大学連携理科ふれあい事業を実施した学校の児童生徒から、理科に対する興味・関心が高まったという感想が寄せられています。 ・理科実験助手事業もローテーションが進んでおり、科学体験活動は順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・科学体験事業や小・中・大学連携理科ふれあい事業において、大学や研究機関との連携を積極的に進め、理科に関する興味・関心を広げるようにします。 ・小学校に理科実験助手を計画的に派遣し、市内全校において教員の実験の準備や取組などのスキルを高められるようにします。 				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(6) 科学体験活動の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①科学わくわくラーニングプログラム事業の推進	教育指導課	A	A	
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの理科に対する興味・関心が高まる対策をしてもらいたい。 ・科学わくわくラーニングプログラム事業は、大変特色があり、意義のある事業だと思うので、子どもたちの理科の学力を更に高める努力をしてもらいたい。 				A

【方向性】 1 生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学校評議員制度の充実			学校管理課	B
施策の内容	学校は、評議員に学校の現状と課題について情報提供を行い、情報の共有化を図るとともに、保護者や地域住民から信頼される学校経営ができるよう学校評議員制度の充実を図ります。				
平成24年度実績	学校の現状と課題に即して、積極的な意見交換のもと、活発な話し合いによる学校評議員会議が実施されています。特に各学校の学校評価において、学校評議員が学校関係者評価の構成員である割合が大きく、開かれた学校づくりに寄与していると考えられます。				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	学校評議員が学校関係者になっている学校	56/56	55/56	55/56	
	学校評価の公表率	56/56	56/56	56/56	
評価の理由	すべての市立学校で、学校評議員が学校関係者評価における評価者になっており、学校経営に関わる情報の共有化が図られています。学校は、保護者や地域住民等の意識の把握、反映だけでなく、学校運営の状況等を周知するなど学校としての説明責任を果たしており、この制度の充実により、概ね順調に進ちよくしています。今後、更に結果を公表する場や機会を増やしていく必要があります。				
改善の方策等	各学校で教育活動等について計画的に自己評価を行い、その結果を公表するとともに、多様な意見を幅広く求め、学校運営に生かすために積極的な情報提供を行っていきます。				

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②地域人材活用事業の充実			学校管理課	B
施策の内容	小・中・特別支援学校が、特色ある学校づくりを推進していくため、多様な体験活動が展開できるように関係団体や地域の方々と連携し、地域人材活用事業の一層の充実を図ります。				
平成24年度実績	特色ある学校づくり支援の報償金の範囲内で、活用実施数の上限を220回に設定したところ、活用実数は205回(対予定数93.2%)でした。学校教育に地域の教育力を用いることで単に技術的な指導にとどまらず、児童生徒の豊かな心を育むことができています。活用回数は昨年度より大幅に減少していますが、これは、日本語指導ボランティアの派遣回数が当初の予定より113回増えたことから、前年度までのようには地域人材の活用に予算を配分できなかったことによるものです。				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	活用回数(回)	600	635	205	
評価の理由	各学校からは地域人材活用に対する期待が高く、活用回数を増やしたい意向です。しかしながら、日本語指導ボランティアの需要が高く、特色ある学校づくり支援の予算の範囲内で活用を増やすことは難しい状況でした。限られた回数で、各学校の実態に合った活動ができていた点では、十分な成果を上げられているといえます。				
改善の方策等	地域人材活用に対する報償金の支払い、日本語指導ボランティア及び学校評議員に対する報償金の執行状況を適時把握し、予算振り分けの見直し、修正を行います。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③日本語指導ボランティアの充実			学校管理課	B
施策の内容	各学校に在籍する外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進し、日本語指導、学校生活への適応指導の支援など、日本語指導ボランティアの充実を図ります。				
平成24年度実績	平成24年度は、市立小中学校18校に在籍する外国籍の児童生徒で日本語指導ボランティアの申請があった37人中、14校28人に対してボランティア12人を週1～2回派遣しました。派遣回数は延べ597回でした。				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	申請受付数(人)	37	27	37	
	日本語ボランティア派遣児童生徒数(人)	34	24	28	
評価の理由	日本語指導ボランティアを派遣することによって、該当児童生徒が授業内容の理解を深め、また、周囲とのコミュニケーションの手助けとなる援助と指導を行うことができ、概ね順調に進ちよくしています。しかし、申請された児童生徒すべてに対し日本語指導ボランティアを派遣できていないことや、児童生徒に必要とされる回数の派遣ができていないことが課題です。				
改善の方策等	今後、日本語指導を必要とする外国籍の児童生徒が増え、その母語の多様化によって求められる日本語指導ボランティアの言語も多様化していくことが予想されます。それに対応できるよう、効率的な派遣方法や人材確保のために関係機関との連携を図っていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7) 地域に開かれた特色ある学校づくりの推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学校評議員制度の充実	学校管理課	B	B	
	②地域人材活用事業の充実	学校管理課	B		
③日本語指導ボランティアの充実	学校管理課	B			
				B	
学識経験者意見等	学校評価におけるアンケートの取り方や公表の仕方については、難しい面も備わっているため教育委員会による適切な指導・助言をお願いしたい。				

【方向性】 1 生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上					担当課	担当課評価
細 施 策	①経験・職能別研修の充実					教育センター	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の経験段階に応じて職務遂行に必要な知識・技能等の習得を図る経験者研修の充実を図ります。 ・教職員の職務に応じた知識・技能等の習得を図る職能別研修の充実を図ります。 						
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・経験段階に応じた研修として、初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修、20年経験者研修等を計画的に実施しました。 ・職能別研修として、主幹教諭、教務主任、学校事務職員、栄養教諭・学校栄養教員、初任者研修拠点校指導教員、学校保健・道徳教育・特別支援教育・教育相談・学校図書館教育・情報教育・進路指導キャリア教育の各担当者、非常勤職員等を対象とした研修会を開催しました。 						
指標及び説明	【指標】 教職員の研修参加回数			【説明】 教職員一人が1年間に研修に参加する回数			
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値				目標値 (H27)
	回	4.1	H22 4.4	H23 5.1	H24 5.2	H25 /	H26 /
評価の理由	研修内容の整理と研修体系の見直しを行いました。研修回数の実績値は、前年度と比べて増加しており、目標値を上回っており、順調に進ちよんでいます。						
改善の方策等	今後も経験者研修等、教職員のライフステージに応じた研修を重視し、経験に応じた資質・能力の向上を図っていきます。また、指導者や講師等についても今日的な教育課題に即した研修となるよう質の向上に努めます。						

施策の柱	(8)教職員の資質向上					担当課	担当課評価
細 施 策	②管理職等研修の充実					学校管理課	B
施策の内容	教育に対する理念や識見を高め、管理職としてのリーダーシップを発揮できるよう管理職等研修の充実を図ります。						
平成24年度実績	校長、教頭を対象とした研修会を実施しました(校長研修会、教頭研修会、一人ひとり大切に、信頼関係に立つ教育推進教頭研修会、校種間連携教育研修会)。						
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24			
	研修会の実施回数 (回)	21	21	20			
評価の理由	学校訪問における管理職ヒアリング、人事評価における校長ヒアリング等において、各学校の管理職が、学校経営・学校運営に関する理解を深め、地域社会から信頼される学校づくりを目指し、リーダーシップを発揮している様子を確認することができ、概ね順調に進ちよんでいます。特に、若手の教職員が増加する状況の中で、人材育成を重視しながら学校運営に取り組み成果をあげている学校があります。校長を補佐する教頭等が学校運営等に関する見識を高め、学校の組織力をより向上させてくことが今後の課題です。						
改善の方策等	今後は、各研修会の内容の改善を図るとともに、校長を助け補佐する教頭や主幹教諭を対象とした研修会の充実を図り、学校の組織マネジメント力をより強化していきます。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	③奨励研修の充実			教育センター	B
施策の内容	教職員の資質向上を図るために、教職員自らが希望して参加できる奨励研修の充実を図ります。				
平成24年度実績	1年間で奨励研修に参加した教職員の人数は、延べ890人でした。研修内容の充実を図るため、大学教授をはじめ各分野における第一線の講師陣を迎え、より専門性の高い研修会を実施しました。また、下記実績数以外にも教職員の指導技術向上のため、年度当初計画以外の研修会を3講座計10回開催し、延べ232人が受講しました。				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	講座数(回)	38	37	35	
	参加延べ人数(人)	815	914	890	
評価の理由	<p>教員のニーズや今日的な課題に即した内容の研修会を企画し、概ね順調に進ちよくしています。講座数及び人数の減少は、2講座を研修内容の重要性を考慮し、奨励研修から重点研修に移行し、該当者全員を対象とする研修(悉皆研修)に変更したためです。</p> <p>参加者による研修内容の評価(5段階評価)では、高い評価(平均4.6)を得るとともに、感想録等から参加者の意欲や意識の向上がみられました。</p>				
改善の方策等	川越市教職員のより一層の資質向上のため、今後も研修の内容について、いじめ問題、生徒指導、保護者対応など今日的な課題に対応した内容となるよう見直し、改善を図り、幅広い実践的指導力の向上を目指していきます。				

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	④かわごえ異業種体験研修事業の推進			学校管理課	B
施策の内容	教員以外の民間の職業を直接体験することにより、再度教育職を見直し、多面的で柔軟な教育指導ができる教員の育成を目指し、かわごえ異業種体験研修の推進を図ります。				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度は9人の教員が異業種体験研修を行い、平成15年度から延べ95人が体験しています。 どの教員も、学校での児童生徒及び保護者との接し方、組織としての学校の在り方、学級経営などを新たな視点で見つめ直し、それを今後の教育活動に生かそうとする意欲を得ています。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	体験教員数(人)	10	10	9	
評価の理由	民間企業での職業体験は、教員が今までの自分の教育指導を見直し、学校及び学校教育の在り方を考え直すよい機会となっており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	同様の研修が川越市立小学校・中学校10年経験者研修に位置づけられており、研修内容の見直しを進めてまいります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	⑤大学等進学指導力向上研修の推進			学校管理課	B
施策の内容	市立高等学校の教員を大学進学予備校や民間教育機関等の研修等に派遣し、学習指導力の向上を図るとともに、その成果を校内に波及させる大学等進学指導力向上研修の推進を図ります。				
平成24年度実績	平成24年度は、予備校における指導法の研修に地歴科(世界史)1講座、公民科(政治経済)1講座、英語科1講座に3人の教員が参加しました。その成果を教科会で報告し、授業における指導法の改善、進学補習の工夫等について共通理解を図り、組織的な取組として成果をあげました。 大学等の主な合格状況につきましても、東京工業大学、早稲田大学、明治大学等難関大学に複数合格するなど成果をあげました。				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	延べ研修参加教員数(人)	13	16	19	
	全教員数に占める割合(%)	27.7	36.4	43.2	
評価の理由	研修に参加した教員数・割合は増加し、概ね順調に進ちよしておりますが、大学進学指導力の向上に直接関わる5教科(国・社・数・理・英)の教員が中心となって参加していることもあり、全教員数に占める割合は40%台にとどまっております。				
改善の方策等	今後も継続的に取り組み、教員数、割合の向上を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①経験・職能別研修の充実	教育センター	A	B	
	②管理職等研修の充実	学校管理課	B		
	③奨励研修の充実	教育センター	B		
	④かわごえ異業種体験研修事業の推進	学校管理課	B		
⑤大学等進学指導力向上研修の推進	学校管理課	B			
学識経験者等意見	大学進学等の指導力を向上させるために研修の成果が発揮できるよう更に努めてもらいたい。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施策	①就学支援委員会の充実			教育センター分室 (リベラ)	B
施策の内容	小・中学校への就学予定者及び小・中学校に在籍する児童生徒のうち、教育上特別な措置又は支援を必要とする者に対して、一人ひとりのニーズに応じた教育的診断を行い、就学の適正化を図るために、専門医、学識経験者、教育関係者、行政経験者で構成する就学支援委員会の充実を推進していきます。				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 就学支援が必要な児童生徒に対して、諸検査の実施や学校訪問による観察、就学前施設への聞き取りを通して、状況を的確に把握し就学先を判断しました。その際、情報収集に努め、再度諸検査を実施したり、更に聞き取りを行ったりしました。 判断と異なる就学先を希望する保護者に対しては、継続の相談を行い、適正な就学先を決定できるようにしました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	就学支援委員会実施回数(回)	28	29	29	
	臨時の就学相談回数(回)	22	49	46	
	就学相談実施人数(人)	218	223	243	
評価の理由	年々就学相談の実施人数が増加している中で、児童生徒についてできるだけ多くの情報収集に努め、適正な就学先を判断し、就学先の決定について継続の相談を行うことができたため概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数の増加に対応し、就学支援委員会の実施回数を見直す必要があります。今後、決められた日程の中で就学相談を行うように努めていきます。 就学相談を進めるにあたり、児童生徒の様子を適切に把握できるよう、就学前施設、小・中学校とより一層の連携を図ります。 				

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施策	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実			教育センター分室 (リベラ)	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターを充実させるとともに、自立支援サポーターの活用を図り、通常学級における支援の推進に努めます。 通常の学級に在籍する軽度言語・聴覚障害や発達障害等のある子どもに対して、障害の程度に応じた指導を実施し支援の充実を図ります。 小・中学校に設置している特別支援学級の子ども一人ひとりの障害の特性等に配慮した指導・支援の充実を努めます。 				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 通常の学級に在籍する児童生徒の中で、学習障害(LD)・注意欠陥多動性障害(ADHD)・高機能自閉症等の発達障害があるなどの個別の支援を必要としている児童生徒数は、年々増加しており、各学校からの自立支援サポーターの申請数も増えています。 申請の出された学校には、各学校の実態に応じて1～3日の範囲で、全て自立支援サポーターを配置しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	対応した児童数(人)	427	465	561	
	対応した生徒数(人)	22	30	47	
評価の理由	各学校に配置された自立支援サポーターは、該当児童生徒に対して個別指導を行ったり、クラスの中に入って活動の助言、支援を行ったりなど、児童生徒との信頼関係を築きながら支援を行い、成果を上げており、順調に進ちよくしております。				
改善の方策等	自立支援サポーターには、特別支援教育支援員の研修会を通して、個別の支援を必要としている児童生徒の実態に応じた支援の方法を身に付けるようにします。教員に対しても個別の支援と全体への指導の仕方について研修する機会を設けていきます。				

【方向性】 1 生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課		担当課評価	
細 施 策	③特別支援教育の理解・啓発の推進			教育センター分室 (リベール)		B	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある児童生徒理解のためのパンフレットを作成し、特別支援教育への理解と啓発の推進を図ります。 ・心のバリアフリーを育む交流及び共同学習等の充実を図り、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進します。 						
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「就学相談セミナー」「発達障害セミナー」に参加した方が、就学相談を希望し適切な就学先に決定することができました。セミナーを通して、保護者へ就学相談に関する情報を提供することができました。 ・特別支援学級の授業について関心のある保護者は多く、1校だけでなく、数校の公開授業を参観する保護者もいました。 						
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24			
	「就学相談セミナー」 「発達障害セミナー」 参加者(人)	12	30	16			
	特別支援学級授業 公開参観者(人)	235	308	302			
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーや特別支援学級の授業公開日を設けることで、市民に対して、特別支援教育を具体的に知り、理解してもらえたため、概ね順調に進ちよくしています。 ・授業公開を行うことで、教員が積極的に研修を重ね、指導の工夫を図る等、資質の向上につながりました。 						
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある児童生徒の保護者だけでなく、一般市民にも理解を得られるような広報活動を積極的に行います。 ・セミナーの内容については、参加する方のニーズに合わせて対応するなど、実態に応じた特別支援教育の理解と推進を図ります。 						

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課		担当課評価	
細 施 策	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実			教育センター分室 (リベール)		B	
施策の内容	市立特別支援学校が、保護者に対する相談活動や小・中学校等へのセンター的な役割が担えるよう支援体制の整備を推進します。						
平成24年度実績	市立特別支援学校のセンター的機能に基づき、49件の相談、研修等に対応しました。 (内訳) <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との面接相談 3件 ・特別な配慮が必要な児童生徒についての小・中学校への指導援助 17件 ・小・中学校における配慮が必要な児童生徒への支援に関する研修会の実施 27件 ・その他(ケース会議) 2件 						
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24			
	特別支援学校のセンター的機能による 対応数(件)	保護者	10	保護者	8	保護者	3
		学校	5	学校	13	学校	17
		研修	12	研修	25	研修	27
		その他	14	その他	2	その他	2
合計		41	合計	48	合計	49	
評価の理由	市立特別支援学校のセンター的機能を研修会等で紹介したことで、研修や小・中学校への対応件数が増加したため、概ね順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	市立特別支援学校のセンター的機能の役割や内容について、各市立学校に対し、更に周知を図ります。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(9) 特別支援教育の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①就学支援委員会の充実	教育センター分室(リベール)	B	B	B
	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実	教育センター分室(リベール)	A		
	③特別支援教育の理解・啓発の推進	教育センター分室(リベール)	B		
④市立特別支援学校のセンター的機能の充実	教育センター分室(リベール)	B			
学識経験者等 学意 見	特になし				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実			教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化の進展に対応し、広い視野と国際感覚を持った児童生徒を育成するため、小・中・市立高等学校及び特別支援学校に配置されている英語指導助手の充実・推進を図ります。 ・小学校での学級担任教員との英語活動や中・高等学校での英語担当教員との共同授業において、英語指導助手をより効果的に活用できる配置を進めていきます。 				
平成24年度実績	現地採用3人、KET2人、派遣契約16人の英語指導助手(AET)を配置しました。 <訪問実績> 英語指導助手(AET)21人 小学校704日 中学校 2,031日 市立川越高等学校 135日 合計 2,870日				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	配置人数(人)	21	21	21	
	1校あたりの年間訪問日数(日)	小51.4 中90.7	小24.0 中112.0	小22.0 中92.3	
評価の理由	派遣会社の契約辞退により、当初の配置計画より訪問開始時期が遅れてしまいましたが、全市立学校への計画的な配置を進めることができ概ね順調に進ちよしています。				
改善の方策等	市内全学校の児童生徒の英語力の向上、国際理解教育の推進には、英語指導助手(AET)の人数を段階的に増やしていくとともに、指導力等の質の向上が不可欠です。派遣業務の業者選定方法を提案型方式に変更し、質の確保に努めます。				

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②小学校外国語活動の推進			教育センター	B
施策の内容	小学校5・6年生での外国語活動の時間に、英語ノートや川越市小学校外国語活動研究委員会が作成した資料を活用し、担任教師と英語指導助手が協力して、英語に親しむことのできる授業の充実・推進を図ります。				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語活動では、英語を通じて言語や文化についての体験的な理解を含め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図りました。英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる活動に取り組みました。 ・川越市小学校外国語活動研究委員会において、新教材Hi, friends!の指導案例や小中連携を目指した活動例などを作成しました。市内全小中学校に配布し、外国語活動を充実・推進するための資料としました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)	3.83	4.29	4.44	
	小学校第5・6学年1学級当たりの英語指導助手(AET)の年間訪問回数(日)	9	4.8	4.09	
評価の理由	小学校外国語活動でのAETの1日平均授業時数が、前年度に比べ増加し、より積極的な活用が図られている状況にありますので、概ね順調に進ちよしています。				
改善の方策等	外国語活動のより一層の充実及び国際理解教育等を図るため、更にAETの積極的な活用を図るとともに教員の指導力の向上を図る研修の充実に努めます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③中学校英語教育の充実			教育センター	B
施策の内容	英語指導助手(AET)の効果的な活用、教員の指導力の向上を図り、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能のバランスを取りながら、体験的・実践的な英語教育の充実を推進していきます。				
平成24年度実績	中学校では、英語担当教諭と英語指導助手(AET)との共同授業を通して、言語の使用場面や言語の働きに配慮したコミュニケーション活動を充実させ、コミュニケーション能力の基礎・基本の定着を図れるよう、生徒が主体的に取り組む授業づくりを推進しました。				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)	3.33	3.39	3.62	
評価の理由	前年度に比べ、1日当たりの英語指導助手(AET)の平均授業数が増え、各学校での共同授業が円滑に進められたため、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	学習指導要領の目標であるコミュニケーション能力の基礎・基本の定着を図るため、英語指導助手の積極的な活用を各学校に促すとともに教員の指導力向上を図る研修の充実に努めます。				

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	④国際理解教育の推進			教育センター	B
施策の内容	・外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進していきます。(再掲) ・国際理解教育の充実・推進を図ります。				
平成24年度実績	・日本語指導を必要とする外国籍の児童に46回の日本語指導を実施しました。 ・市立小、中、高、特別支援学校教諭を対象とした国際理解教育研修会を実施しました。 ・市立小学校を2つのブロックに分け、ブロックごとに1校が外国語活動の授業公開を行い、研究協議を行いました。				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	国際理解教育研修会実施数(回)	3	3	3	
	参加延べ人数(人)	173	116	109	
評価の理由	全市立学校の教職員が国際理解教育に関する研修会に参加し、指導力の向上を図ることができ、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	国際理解教育推進のために外国語教育だけでなく、さまざまな面で国際理解教育が推進されるような研修会を計画していきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(10) 英語教育・外国語（英語）活動及び国際理解教育の推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実	教育センター	B	B	B
	②小学校外国語活動の推進	教育センター	B		
	③中学校英語教育の充実	教育センター	B		
	④国際理解教育の推進	教育センター	B		
学識経験者等意見	英語教員のコミュニケーション能力を身に付けるためのスキルアップ研修の導入を検討してもらいたい。				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進						担当課	担当課評価
細 施策	①ICT教育の推進						教育センター	B
施策の内容	児童生徒がコンピュータやインターネット等のICTを活用し、情報の収集・活用・発信という主体的な学習ができるよう推進します。							
平成24年度実績	小学校・中学校の授業におけるICT(情報通信技術)活用回数は、それぞれ平成23年度36.8回、25.4回から平成24年度34.1回、40.2回となり、小学校では減少しましたが、中学校では大きく増加しており、全体としては昨年度より増加しています。また、全小学校導入のデジタル教科書の活用により、授業でのデジタル教科書活用回数は、平成23年度の1校あたり78回に対して平成24年度は110回となり、増加しています。							
指標及び説明	【指標】 授業におけるICT(情報通信技術)活用授業回数				【説明】 市内全小学校のうち1学級当たり1年間にICT(情報通信技術)を活用した授業の実施回数			
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	
	回	28	32.2	36.8	34.1		35	
評価の理由	授業におけるICT活用授業回数の実績値は前年度に比べて減少したが、目標値に対して達成度は高くなっており、概ね順調に進ちよしています。							
改善の方策等	教職員一人ひとりの能力や適性にあった研修会を計画的に実施し、ICT活用の実践例や効果を実感してもらうことにより、児童生徒への授業での一層の活用を図っていきます。							

施策の柱	(11)情報教育の推進						担当課	担当課評価
細 施策	②情報モラル教育の推進						教育センター	A
施策の内容	児童生徒の情報の安全管理や情報モラル等の育成を一層推進するために、情報教育推進委員会、管理職や情報化推進リーダー等を対象にした情報モラル教育の研修を体系的に推進します。							
平成24年度実績	情報モラル教育に関しては、小学校では主に総合的な学習の時間で実施しています。中学校では、技術家庭科(技術分野)の年間指導計画に全校位置付けています。また、小・中学校の道徳教育全体計画への位置付けは、小学校16校、中学校5校でした。情報モラル指導の授業での実施回数は、平成23年度は1校あたり小学校で19.9回、中学校で19.2回だったのに対し、平成24年度は、小学校で25.8回、中学校で20.9回に増加しました。							
指標及び説明	【指標】 情報モラルに関する指導ができる教員の割合(文部科学省及び川越市独自調査)				【説明】 市内全中学校の教員のうち情報モラルに関する指導ができる教員の割合			
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	
	%/校	66	75	76	77		80	
評価の理由	情報モラルに関する指導ができる教員の割合が、現在値と比べ増加しており、進ちよ状況としては、平成22年度から順調に進ちよしております。							
改善の方策等	道徳教育全体計画及び年間指導計画への位置付けを今後も徹底して行います。また、教育センター主催の情報モラル教育に関する研修会等を通して、教職員の情報モラルに関する指導力の一層の向上を図ります。							

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③コンピュータ施設・設備の充実と活用			教育センター	B
施策の内容	小・中学校に設置されている教育用コンピュータの活用を図るため電子黒板やプロジェクター等の周辺機器を更に充実し、コンピュータ施設・設備の充実と活用を図ります。				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の更なる活用を図るため、小学校6校の教育用コンピュータと周辺機器の入替と携帯型電子黒板を小・中学校38校へ追加導入し、普通教室でICT(情報通信技術)を活用した授業を行う環境を整備しました。 ・情報機器の基本的な操作を身に付けさせるため、教育センターにおいて、デジタル教科書操作研修会や電子黒板操作研修会を実施しました。デジタル教科書と電子黒板操作研修会参加者が、平成23年度34人から平成24年度122人へと88人増加しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	校務にICTを活用できる小学校教員の割合(%)	95.5	96.5	96.0	
	校務にICTを活用できる中学校教員の割合(%)	94.8	94.4	95.5	
評価の理由	校務にICTを活用できる小学校・中学校教員の割合が95%を超えています。学校により差がありますが、中学校では1.1ポイントの伸びが見られました。進ちよく状況は、概ね順調です。				
改善の方策等	小学校24校の教育用コンピュータ(23校20台、1校40台)と周辺機器、小・中学校全校の校務用パソコン(各校1台)と周辺機器の入替をし、学習活動における教育活動の質の向上を図ります。円滑に活用が図られるよう、教育用パソコン入替校を中心に操作研修会や技能に応じた研修会を実施します。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①ICT教育の推進	教育センター	B	B	
	②情報モラル教育の推進	教育センター	A		
③コンピュータ施設・設備の充実と活用	教育センター	B			
学識経験者意見等	情報モラルの欠如が、こういった結果を引き起こすか子どもや家庭への周知を徹底してもらいたい。				B

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①読書活動啓発推進事業			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 小学生には「小江戸読書マラソン」の取組、中学生には「小江戸中学生読書手帳」の活用を通して、児童生徒の読書活動を推進します。 家庭には読書活動啓発リーフレットを保護者に配布し、家庭における読書活動の啓発に努めます。 				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 小学生には「小江戸読書マラソン」を配布し、意欲的な読書活動が進められるようにしました。 中学生には「小江戸中学生読書手帳」を配布し、生徒の興味・関心を踏まえ、取り上げる本を見直すなど内容を改善しました。 家庭用に保護者に対して読書活動啓発リーフレットを作成し、配布しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	小学校における年間平均読書冊数(冊)	49.6	52.5	48.9	
	中学生読書手帳に記入された平均読書数(冊)	10.2	9.7	10.5	
評価の理由	「小江戸読書マラソン」「小江戸中学生読書手帳」を活用等により、児童生徒の読書活動の推進は概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書の質と量を含めた学校図書館の充実を図ります。 「小江戸読書マラソン」や「小江戸中学生読書手帳」について、研修会等を通じてより積極的な活用を促すなど、読書活動の推進に取り組みます。 				

施策の柱	(12)読書活動の推進			担当課	担当課評価		
細 施 策	②図書館司書による読書活動の推進			中央図書館	A		
施策の内容	図書や図書館への興味・関心を持ってもらうため、図書館司書の学校訪問等を通じ、読書活動の推進に努めます。						
平成24年度実績	全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行いました。						
指標及び説明	【指標】 図書館司書による学校訪問等の回数(校数)			【説明】 市立小学校3年生の各学級を対象に本の紹介などを行う			
	指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値			目標値(H27)
	回	20	32	32	32	32	32
	校	20	32	32	32	32	32
評価の理由	図書館司書による全市立学校訪問等により、児童生徒の読書活動が推進されており、順調に進ちよくしております。						
改善の方策等	市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介などを行います。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進						担当課	担当課評価
細 施 策	③図書館から学校への団体貸出の推進						中央図書館	C
施策の内容	児童生徒たちの読書要求に応えるため、市立図書館から学校への団体貸出を推進します。							
平成24年度実績	児童生徒たちへ「テーマ」に沿った図書を市内小学校21校に延べ72回、4,835冊、中学校4校に延べ5回、224冊貸出しました。							
指標及び説明	【指標】 学校への団体貸出数			【説明】 市内小中高校の各学級を対象に100冊を上限に1ヶ月間貸出する冊数				
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値				目標値 (H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	
	冊	5,725	6,886	5,158	5,059		8,000	
評価の理由	小学校への貸出冊数は4,835冊で平成23年度(4,543冊)と比べて約6%増でしたが、中学校への貸出冊数は224冊で平成23年度(615冊)と比べて約60%減でした。このため、小・中学校の合計としては、平成23年度と比べて約2%減となり、あまり順調ではありません。							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高校の先生たちに事業のPRをします。 ・児童生徒たちの読書要求に応える図書を紹介します。 							

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①読書活動啓発推進事業	教育指導課	B	B	
	②図書館司書による読書活動の推進	中央図書館	A		
③図書館から学校への団体貸出の推進	中央図書館	C			
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> ・小江戸読書マラソンや小江戸中学生読書手帳などは、読書のモチベーションを高めるよい取組だと思うので、今後も読書活動の推進を図ってほしい。 ・読書するためには時間が必要であるため、時間を有効に割り振る指導を行うことが読書の啓発にもつながる。 				B

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学校保健活動の推進			教育指導課	A
施策の内容	学校・家庭・地域との連携を図りながら、健康診断や学校環境衛生活動等の保健管理の徹底に努めるとともに、歯・口の健康づくりや薬物乱用防止教育・性に関する教育等の保健教育や学校保健活動を推進します。				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における定期健康診断等を実施しました。 ・学校環境衛生検査として飲料水検査、プール水検査、学校環境衛生検査、ホルムアルデヒド及び揮発性物質検査、砂場の細菌検査、ダニ・アレルゲン検査を実施しました。問題があった場合は、指導により改善を図りました。 ・放射性物質への対応として、プール水の検査の他、空間放射線量の測定を実施しました。 ・歯・口の健康づくりや性に関する教育等は、学習指導要領に基づき適切に実施しました。 ・薬物乱用防止教育においては、薬物乱用防止教室を全校で実施し、健全な心身の育成に向けた取組をしました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	薬物乱用防止教室の実施状況	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての検査等を適切に実施し、問題のあった場合は改善を指導し、再検査等で状況を確認しています。 ・全校で児童生徒の発達段階に応じた薬物乱用防止の指導を実施するなど順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー疾患への対応等、新たな課題に取り組み、衛生的で安全な学習環境を維持します。 ・薬物乱用防止教育を更に充実させ、児童生徒の健全な心身の育成に取り組みます。 				

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②安全・安心の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、地域の実態に応じた安全教育、安全指導を推進します。 ・登下校等における児童生徒の安全確保のための通学路の安全点検、スクールガード・リーダーの配置、地域ボランティアによるパトロール等、地域及び関係機関等との連携を図り、安全・安心の取組を推進します。 				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールガード・リーダー養成講習会を実施しました。 ・各学校に通学路点検の指示をし、改善要望をとりまとめ、防犯交通安全課に提出しました。 ・青色回転灯パトロールカーによる市内の巡回を41回実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	スクールガード・リーダー養成講習会参加者数(人)	99	107	114	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校全校にスクールガード・リーダーを委嘱しました。 ・関係課との連携により通学路の整備が進められ、概ね順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の交通事故の原因は、歩行時の飛び出しや自転車による運転の問題が多く、重大な事故につながらないよう、交通安全の指導を継続的に実施します。 ・学校からの要望書を受け、関係課と連携することで、危険箇所の把握及び改善をより速やかに進めてまいります。 				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進						担当課	担当課評価
細 施 策	③体力向上の推進						教育指導課	B
施策の内容	「川越市児童生徒体力向上推進委員会」の取組や、近隣の大学との連携による「トップアスリートふれあい事業」の実施を通して、児童生徒の体力向上の推進に取り組みます。							
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「川越市児童生徒体力向上推進委員会」を開催し、「じゃんぷ」「川越市小・中学校新体力テスト一覧」を発行しました。 ・「トップアスリートふれあい事業」により、東洋大学、城西大学と連携し、駅伝部のコーチ・学生を市立小学校6校に派遣し、1,794人の児童が参加しました。 ・市立全小中学校で新体力テストを実施し、結果をまとめ、体力向上の推進を図りました。 							
指標及び説明	【指標】 新体力テスト総合評価(5段階)で3段階以上の割合				【説明】 市内全中学校生徒の新体力テスト総合評価基準表の上位3段階生徒の割合			
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実績値				目標値 (H27)	
			H22	H23	H24	H25		H26
	%	82.6	83.2	83.7	85		90.0	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「トップアスリートふれあい事業」については、第一線で活躍する大学生の走りを体感することにより、児童の走る意欲が高められました。 ・市内全中学校生徒の新体力テスト総合評価基準表の上位3段階生徒の割合は、平成21年度以降増加しており、概ね順調に進ちよくしています。 							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で実施した新体力テストの分析により、「握力」「立ち幅とび」「ボール投げ」を体力重点課題とし、全体的な体力向上に向け、学校生活や授業の改善に取り組みます。 ・川越市児童生徒体力向上推進委員会により、効果的な指導方法を研究します。また、小中の連携により、9年間を見通した体力向上に取り組みます。 							

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進					
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価	
			細施策	施策の柱		
	①学校保健活動の推進	教育指導課	A	B		
	②安全・安心の推進	教育指導課	B			
③体力向上の推進	教育指導課	B				
				B		
学識経験者意見等	トップアスリートふれあい事業は、特色ある事業であるため小学校だけでなく中学校への実施も検討してもらいたい。					

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(14)学校の評価充実			担当課	担当課評価
細 施策	①人事評価の充実			学校管理課	B
施策の内容	教職員人事評価システムを有効に活用し、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、校長を中心とする学校組織の活性化や人事評価の充実を目指します。				
平成24年度実績	年度当初に個々に掲げた目標について、面談を重ね、達成状況や職務遂行の過程で発揮された能力、執務姿勢を総合的に評価し、資質向上を図りました。				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	校長に対する年間面談回数(回)	168	168	168	
	教職員に対する年間面談回数(回)	5,036	4,980	4,896	
評価の理由	「埼玉県市町村立学校職員の人事評価に関する規則」及び「埼玉県市町村立学校職員の人事評価実施要領」に基づき、各学校で設定した目指す学校像と重点目標を踏まえて達成目標を策定し、自己評価と評価者評価を通して、教職員の資質・能力の向上に活用され、概ね順調に進ちよくしています。課題であった中心化傾向がやや改善されました。				
改善の方策等	年度当初面談を通し、目標設定における困難度の設定のあり方に十分留意させ、よりメリハリのある評価ができるよう人事評価についての説明時等を活用して指導を続けていきます。				

施策の柱	(14)学校の評価充実			担当課	担当課評価
細 施策	②学校評価の充実			学校管理課	B
施策の内容	PDCAサイクルによる学校の自己評価、外部アンケート等の実施、学校関係者評価などを通して、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と充実を目指します。				
平成24年度実績	各学校が、外部アンケート等を積極的に活用し自己評価を行い、更に学校に関係するPTAや地域住民、学校評議員等による学校関係者評価を通して課題や改善点を整理し、学校運営改善に活用しています。				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	「自己評価」におけるA評価の割合(%)	25.6	31.4	31.1	
	「学校関係者評価」におけるA評価の割合(%)	39.7	51.9	51.6	
評価の理由	各学校が、自己評価における評価理由及び改善策を学校関係者に提示し、その後、学校関係者評価を実施し意見を伺っており、概ね順調に進ちよくしています。しかし、評価項目によっては具体性に欠けるものが見られました。				
改善の方策等	自己評価や学校関係者評価を受けて、全職員が共通認識を持って課題の解決が図れるよう、研修会を実施する等、学校に対して指導していきます。併せてわかりやすく成果がつかめるような具体的な評価項目を設定するよう説明時等を利用して指導していきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(14) 学校の評価充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価	
			細施策	施策の柱		
	①人事評価の充実	学校管理課	B	B		B
	②学校評価の充実	学校管理課	B			
学識経験者等 学意 見	特になし					

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(1)学校施設の整備・充実					担当課	担当課評価
細 施 策	①学校施設の耐震化の推進					教育財務課	A
施策の内容	学校施設は、児童生徒が1日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、災害発生時には地域住民の避難場所となるなど重要な役割を担っていることから、学校施設の耐震化に向け耐震補強工事を計画的に取り組みます。						
平成24年度実績	・耐震補強工事を実施(小学校1校 中学校5校)						
指標及び説明	【指標】 学校施設の耐震化の推進				【説明】 市内のすべての公立小中学校の耐震化の割合		
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	63	76	93	100		100
評価の理由	平成24年度を完了年度とした「川越市小中学校耐震化推進計画」に基づき、全学校施設の耐震化が完了しました。						
改善の方策等	平成24年度に全学校施設の耐震化が完了しました。						

施策の柱	(1)学校施設の整備・充実					担当課	担当課評価
細 施 策	②大規模改造工事等学校施設の整備の推進					教育財務課	B
施策の内容	学校施設設備の老朽化した部分等の緊急性や必要性などを検討し、建物の耐久性の向上を図るため大規模改造工事等計画的な施設・設備の整備を進めていきます。						
平成24年度実績	・大規模改造工事設計業務委託を実施(小学校2校 中学校2校) ・体育館の耐震補強工事に併せて大規模改造工事を実施(中学校1校)						
指標及び説明	【指標】 大規模改造工事の推進				【説明】 市内のすべての公立小中学校の大規模改造工事の実施割合		
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	44	52	54	55		59
評価の理由	平成23年度に策定した「川越市小中学校大規模改造計画」に基づき、大規模改造工事設計業務委託を実施しました。また、体育館の耐震補強工事に併せて大規模改造工事を中学校1校にて実施したので、概ね順調に進捗よくしています。						
改善の方策等	学校施設の耐久性の向上、施設の機能改善、教育環境の改善を図るため、「川越市小中学校大規模改造計画」に基づき、大規模改造工事を進めてまいります。						

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(1) 学校施設の整備・充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学校施設の耐震化の推進	教育財務課	A	A	A
	②大規模改造工事等学校施設の整備の推進	教育財務課	B		
学識経験者等 学意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の耐震化については円滑に進み、平成24年度に完了したことを大いに評価したい。 ・学校トイレについては、洋式化を計画的に進めてもらいたい。 				A

- 【方向性】 1 一生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(2)小・中学校の適正配置と通学区域の弾力化			担当課	担当課評価
細 施 策	①小・中学校の通学区域・規模等の検討			学校管理課	B
施策の内容	今後の川越市立小中学校の在り方検討委員会において、「通学区域に関すること」、「余裕教室の活用に関すること」、「今後の望ましい学校数(学校の統廃合や存続等)に関すること」、「その他」の視点で検討し、将来にわたり適正な小中学校の通学区域・規模等を調査研究していきます。				
平成24年度実績	川越市立小中学校の在り方検討委員会を開催し、通学区制度の弾力的運用の適正な運用を図るため、指定校変更・区域外就学許可基準の公表について協議しました。また、今後の児童数(学級数)の推移について協議しました。				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	小中学校の在り方検討委員会等開催回数(回)	1	1	6	
	検討内容	余裕教室の活用に関すること	指定校変更、区域外就学について	指定校変更、区域外就学許可基準の公表、施設整備	
評価の理由	「通学区域に関すること」において、指定校変更や区域外通学の内容の見直しと許可基準の公表について検討を進め、許可基準を市ホームページで公表することができました。また、今後学級数の増加が見込まれる地区における施設整備に係る検討を進めることができしており、概ね順調に進ちよしています。				
改善の方策等	児童生徒数の増減に伴う小中学校の在り方については、地域により状況がさまざまであり、それぞれへの対応について引き続き検討することが必要です。今後も、児童生徒数の推移を把握するとともに、大型集合住宅の建設や大規模地域開発の予定の把握に努め、他部署と連携しながら更に検討を進めていきます。				

- 【方向性】 1 一生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(2)小・中学校の適正配置と通学区域の弾力化				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①小・中学校の通学区域・規模等の検討	学校管理課	B	B	
学識経験者等	児童生徒数の増減に伴う小中学校の在り方については、特に南古谷地区の児童が多くなり、南古谷小学校や牛子小学校が飽和状態になっているため、計画的に進めてもらいたい。				B

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(3)学校図書館の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①司書教諭・図書整理員の配置			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭・図書整理員の配置により、学校図書館経営の充実を図り、学校図書館を活用した学習指導を一層推進します。 ・司書教諭や図書整理員の研修等を通して読書好きの児童生徒を増やし、子どもの読書活動を活発にするために、司書教諭や図書整理員の研修等を通して、創意工夫をこらした学校図書館の中で、子どもの読書活動が充実するように努めます。 				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭、図書整理員とも全校に配置しました。(図書整理員は30人を複数校配置で対応) ・子ども読書活動推進研修会を実施し、司書教諭を中心に児童生徒の読書活動推進のための研修を実施しました。 ・魅力ある学校図書館をつくる図書整理員研修会を年4回実施し、学校図書館の充実を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	学校図書館の貸出数(小学校)(冊)	377,340	380,856	417,968	
	学校図書館の貸出数(中学校)(冊)	25,579	29,621	42,407	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会を通して、司書教諭・図書整理員の職務内容の充実が図られました。 ・計画的な研修により学校図書館の整備と活用が促進され、貸出冊数も増加しており、順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	「全校一斉朝読書」など読書活動の時間を設けたり、教科の指導等で学校図書館の利用を促進し、生徒が本に触れる機会を増やします。				

施策の柱	(3)学校図書館の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②蔵書の充実			教育指導課	B
施策の内容	学校教育の中で、学校図書館の活用の充実が図れるよう、子どもの要望に応じた図書や豊かな心を育てるための図書を計画的に購入し、蔵書の充実に努めます。				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に適切に予算を配当し、計画的に図書を購入しました。 ・調べ学習や発展的な学習に活用できる本や児童生徒の興味・関心の高い本を計画的に購入し、学校図書館の環境整備を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	図書標準の達成率(小学校)(%)	70.6	74.8	78.0	
	図書標準の達成率(中学校)(%)	82.3	85.7	90.8	
評価の理由	図書の計画的な購入により、図書標準の達成率は向上しており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	計画的な図書の購入と適切な蔵書の入替により、蔵書の量的確保とともに質的向上が図れるよう整備を進めます。				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(3) 学校図書館の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①司書教諭・図書整理員の配置	教育指導課	A	A	A
	②蔵書の充実	教育指導課	B		
学識経験者等 学意 見	児童生徒の年間貸出冊数が増えるような取組・工夫を行って欲しい。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①食育の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が生涯健康で充実した生活を送るために、学校給食を通じた食に関する指導に加え、教科等と連携した食に関する指導の推進に努めます。 ・効果的な食に関する指導を推進するため、栄養教諭制度等の指導体制の整備を推進するとともに、学校、家庭、地域への啓発、情報提供など、連携した取組を目指します。 				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭において、食に関する指導、意義、役割等について理解を深め、家庭での実践に生かすために「朝食欠食ゼロキャンペーン」を市内小中学校全校で実施しました。 ・「食に関する指導法研修会」を、栄養教諭・学校栄養教員研修会と合同で実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	必ず朝食をとる割合(小5)(%)	91.0	89.7	89.5	
	必ず朝食をとる割合(中2)(%)	82.6	83.8	83.3	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の時間や家庭科等の授業で、バランスのよい食事や地産地消等の考え方を学習する時間が増えてきています。 ・各学校において食育における年間指導計画を踏まえた指導を行っており、概ね順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県の「早寝、早起き、朝ご飯」の運動を推進します。 ・食育についての研修を今後も計画的に実施します。 				

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価		
細 施 策	②給食内容の充実			学校給食課	B		
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心でおいしい給食を提供するため、栄養的にバランスの取れた給食を提供し、児童生徒の健康の増進や体力の向上を目指します。 ・学校給食で使用する食材の安全確保に努めるとともに、地場産物の使用拡大に努めます。 						
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における摂取基準に基づいた学校給食を小学校・中学校で190回実施しました。 ・農産物等の産地証明、残留農薬証明等を求め、給食材料の安全性を確保しました。 ・地産地消の考えから主食米については、川越産米約235t、野菜については約77t(17品目)使用しました。 ・食材について、毎日3品目程度と給食1食分の放射性物質検査を実施しました。 						
指標及び説明	【指標】 学校給食における地場産物の使用拡大		【説明】 学校給食への川越産野菜使用割合				
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)
	%	19.3	H22	H23	H24	H25	H26
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・夏場の暑さの関係で、地場産の生産量に影響がありましたが、目標値に近い割合で地場産を使用することができているため、概ね順調に進ちよくしています。 ・食材の安全性を確保するため、放射性物質の検査機器を購入し、検査回数や品目を増やし、独自に検査を実施しました。 						
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産農産物の利用を増やしていくため、地場産物を生かした献立や、収穫期に合わせた献立等、地場産物を積極的に取り入れる方法を検討していきます。 ・食材の安全性確保のため、引き続き放射性物質の検査を実施していきます。 						

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	③学校給食施設の整備			学校給食課	C
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・藤間学校給食センターと吉田学校給食センターは老朽化が進んでいるため、施設の更新を計画的に推進していきます。 ・学校給食の安全性の向上を図るため、調理場のドライ化を推進します。 				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)川越市学校給食センター整備運営事業基本計画案策定支援等業務を実施しました。 ・今成学校給食センター調理室空調設備改修工事を実施しました。 ・各学校給食センターの維持管理のため、優先度をつけて修繕を実施しました。 ・調理場のドライ化を推進し、学校給食の安全性の向上を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	改修工事	洗浄室空調設備改修工事(今成)	揚物機等改修工事(今成),重油タンク設置等工事(藤間)	調理室空調設備改修工事(今成)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の更新については、付加機能等の検討が多くあったことから、基本計画案の策定には至りませんでした。 ・改修工事は少しずつ進んでいます。 ・維持管理のための修繕は、緊急対応の修繕が多く発生したことにより、十分に実施されていないことから、全体的にはあまり順調ではありません。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急修繕以外のものは計画的に維持管理のための修繕を実施します。 ・藤間学校給食センターと吉田学校給食センターの更新については、PFIの実施も含め、基本計画案を策定します。 				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4) 学校給食の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①食育の推進	教育指導課	B	B	
	②給食内容の充実	学校給食課	B		
③学校給食施設の整備	学校給食課	C			
学識経験者意見等	世の中には色々な食品が出回っており、子ども自身が良いもの悪いものを判断できるような食育の指導の充実をお願いしたい。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(5)市立川越高等学校の改革・充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進			市立川越高等学校	B
施策の内容	第二次川越市立川越高等学校将来構想懇話会を設置し、「学科編制の在り方」「学校・学級規模の在り方」「教員の研修の在り方」「中高連携や中高一貫教育の在り方」について検討し、市民の負託に応える魅力ある市立高等学校づくりを推進します。				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度当初から1年生すべての学科で35人の少人数学級を編制しました。また、地域特別選抜を導入しました。 市立高等学校教員の20年経験者研修・異校種体験研修を連携3中学校(城南中、大東中、野田中)と実施しました。 城南中2年生192人全員が進路指導として、市立高等学校での体験授業を受講しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	市内生の比率(%)	34.0	40.3	37.6	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> 中学校と市立高等学校の教員が互いの状況を学び教育力の向上に役立ちました。 市立高等学校と城南中・野田中のソフトテニス部が年間を通して合同練習を実施し、高校生が中学生を指導しました。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 35人学級の編制、地域特別選抜の導入についてその成果を検証します。 中学校と市立高等学校の連携については、3年間を一区切りとして進めており更に推進していきたいと考えています。 授業公開や部活動の合同練習等を通じ、各中学校と市立高等学校の教職員の理解を一層深めます。 				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(5)市立川越高等学校の改革・充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進	市立川越高等学校	B	B	
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> 市立川越高等学校は、川越市の教育の中心となるべき施設だと思うので特色ある教育をしてもらうように検討をお願いしたい。 学級編制の人数はとても重要であるため、出来れば3学年全てで少人数学級編制が組めるよう検討をお願いしたい。 				B

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(6)教育センターの充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①教育センターの整備・開放の充実			教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターの機能を充実させるため、教職員研修体制の整備を図るとともに、市民も活用できる施設となるよう推進します。 ・1階施設や体育館及び運動場は、市民に対して積極的に開放していき、研修施設としての設備は計画的に整備し、教育センター機能の充実を図っていきます。 				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の貸し出しに関して古谷公民館だよりで告知し、利用団体が増えています。 ・1階施設や体育館及び運動場は、センターでの研修と重ならない場合、市民に対し積極的に貸し出しを行いました。 ・1階施設は、火災対策工事を実施しました。 ・休日や夜間の貸し出し時の管理業務を川越市シルバー人材センターに委託して市民が使いやすい環境整備を行いました。 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	1階施設利用者数(人)	1,411	944	1,067	
	体育館及びグラウンドの利用回数と人数(回/人)	394 / 15,246	231 / 7,612	197 / 9,069	
評価の理由	<p>運動場の貸し出しは、年間を通して毎週土日使用されています。体育館は、各種団体が使用している学校施設が利用できない期間(改修工事や卒業式等の学校行事)に多く利用されました。</p>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も施設利用に関する情報を公民館だより等に掲載し、地域住民への周知を図ります。 ・サッカーゴールや体育館等の老朽化対策を行う必要があります。 ・教職員研修施設として1階の一部及び2・3・4階の防火対策、駐車場の整備等を進めていきます。 				

施策の柱	(6)教育センターの充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②家庭・地域との連携研修の充実			教育センター	B
施策の内容	<p>不登校や情報モラル教育の諸問題など、今日的な教育課題解決のために、学校や家庭・地域との相互理解を目的とした家庭・地域と連携した研修の充実を図ります。</p>				
平成24年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の研修会を2回実施しました。(平成22年度から実施) ①講義「不登校児童生徒への援助のあり方」 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の現状と課題 ・不登校0を目指して ②講義「子どもたちとインターネット」 <ul style="list-style-type: none"> ・適切なインターネット利用 ・コンピュータウイルス 				
成果実績	項目名(単位)	H22	H23	H24	
	研修会の開催(回)	2	2	2	
	参加者数(人)	87	73	84	
評価の理由	<p>学校と家庭で相互理解を目的とし、今日的な課題を取り上げた研修会を開催しました。参加者からは、参加して良かった、家で携帯電話について子どもと話してみたい、保護者会等で報告したいといった感想があげられ、概ね順調に進ちよくしています。</p>				
改善の方策等	<p>保護者の参加者を増やすために、研修会開催通知とともに講演会のリーフレットを作成及び添付し、各学校を通して保護者への周知を図り、参加を促進します。また、各学校へ研修内容を周知し、活用を促します。</p>				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(6) 教育センターの充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①教育センターの整備・開放の充実	教育センター	B	B	B
	②家庭・地域との連携研修の充実	教育センター	B		
学識経験者等 意見	<p>・教育センターとして最大限の機能を考えれば駐車場機能の拡張をお願いしたい。</p> <p>・川越市の教育の拠点として設備を充実するなど最大限の活用を検討してもらいたい。</p>				